

船舶事故調査報告書

平成25年6月6日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 庄 司 邦 昭

委員 根 本 美 奈

事故種類	転覆
発生日時	平成24年11月27日（火） 14時20分ごろ
発生場所	福岡県北九州市女島 ^{めしま} 北西端付近 北九州市所在の白島国家石油備蓄基地船溜り西防波堤灯台から真方位267° 1,900m付近 (概位 北緯34° 00.3′ 東経130° 42.5′)
事故調査の経過	平成24年11月28日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーボート ^{エスエフ} SF-730、5トン未満 230-38136福岡、日産マリーン株式会社 6.89m (Lr) × 2.57m × 1.35m、FRP ディーゼル機関、62.52kW、平成10年7月16日
乗組員等に関する情報	船長 男性 35歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成8年3月1日 免許証交付日 平成23年3月18日 (平成28年4月1日まで有効)
死傷者等	軽傷 2人（船長及び友人）
損傷	全損
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、友人1人を乗せ、北九州市所在のマリーナを出航して平成24年11月27日13時10分ごろ北九州市男島 ^{おしま} 南岸付近に到着し、ルアー釣りを開始した。 本船は、14時10分ごろ女島北西端北方沖に移動し、機関をかけた状態でクラッチを切り、船首を南方に向けて漂泊しながら釣りをしていたが、北西の風に圧流されて女島に接近するたびに機関を使用して風上に移動していた。 本船は、14時20分ごろ、浅瀬まで約20mに接近したので、船長が、釣りをやめて操縦席に戻り、後方から接近する波を見ながら後進をかけたところ、右舷後方から高波を受けて一瞬にして転覆した。 船長及び友人は、岸まで泳ぎ着き、携帯電話で出航したマリーナに事故の連絡を行い、福岡県警察所属のヘリコプターに救助された。

	<p>船長及び友人は、本事故時、船長が頭部裂傷、友人が右足打撲を負った。</p> <p>本船は、女島北西端付近の浅瀬に乗り揚げ、その後、波浪により損壊したため、廃船処分された。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 北西、風速 約5～6m/s、視界 良好</p> <p>海象：波向 北北西、波高 約1.5～2.0m、海水温度 約16℃</p> <p>北九州地区には、波浪注意報が継続して発表されていた。</p>
その他の事項	<p>転覆場所付近の水深は、約8～10mであった。</p> <p>本船の喫水は、船首約0.8m、船尾約1.4mであった。</p> <p>船長及び友人は、救命胴衣を着用していた。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>あり</p> <p>本船は、波浪注意報が発表されていた女島北西端付近で漂流して釣り中、浅瀬に接近した際、船長が後方から接近する波を見ながら後進をかけたところ、右舷後方から波を受けたことから、転覆したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、波浪注意報が発表されていた女島北西端付近で漂流して釣り中、浅瀬に接近した際、船長が後方から接近する波を見ながら後進をかけたところ、右舷後方から波を受けたため、転覆したことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止及び被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸岸近くで漂流して釣りをする際は、磯波に十分注意すること。